

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3148822号
(U3148822)

(45) 発行日 平成21年3月5日 (2009.3.5)

(24) 登録日 平成21年2月12日 (2009.2.12)

(51) Int.Cl.

F 1

B 6 2 K 5/04 (2006.01)

B 6 2 K 5/04

D

B 6 2 K 21/04 (2006.01)

B 6 2 K 21/04

評価書の請求 未請求 請求項の数 2 書面 (全 5 頁)

(21) 出願番号 実願2008-8748 (U2008-8748)
(22) 出願日 平成20年11月17日 (2008.11.17)(73) 実用新案権者 508366064
浦田 良春
大阪府大阪市住吉区山之内4丁目9番8号
(72) 考案者 浦田 良春
大阪府大阪市住吉区山之内4丁目9番8号

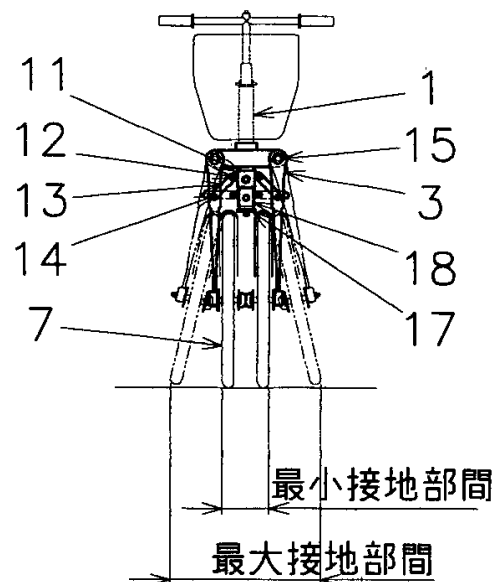
(54) 【考案の名称】 自転車

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】従来の自転車の走行性能を維持しながら、重い荷物や幼児を載せた場合でも安全で快適な走行が可能な前輪巾可変自転車を提供する。

【解決の手段】自転車本体1の前輪部には左右並列に設けられた2輪と、後輪とからなる自転車であって、前記2輪の各々は独立した左右のフォーク3に装着され、該各フォークの上部に設けられたフォークピン15を支点に、前記2輪の接地部間距離が可変可能であることを特徴とする自転車である。

【選択図】 図2



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

自転車本体の前輪部には左右並列に設けられた 2 輪と後輪とからなる自転車であって、前記 2 輪の各々は独立した左右のフォークに装着され、該各フォークの上部に設けられた回転軸を支点に、前記 2 輪の接地部間距離が可変可能であることを特徴とする自転車。

【請求項 2】

前記左右のフォークは、前記回転軸を両端に設けたフォーク本体により連結され、該フォーク本体の中心部には、ハンドル軸が固定貫通されかつ、該ハンドル軸の下方部に摺動し得るスライドカラーと該スライドカラーの左右から、前記左右の各フォークに連結され前記フォークの開閉角度を変えるリンクを設けたことを特徴とする請求項 1 記載の自転車

10

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は前輪巾可変可能な自転車に関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来より自転車は 2 人乗りの場合とか、又は重い荷物を乗せた場合はかなり不安定な乗り物であるが、最近では 3 人乗りは禁止されているようですが、大人 1 人で幼児 2 人を前と後ろに乗せて保育園に通うお母さん方がよく見受けられますが、非常に危険性を感じています。そこで通常は普通自転車と同等の手軽さで取り扱いが可能で、重い荷物又は、幼児を載せた場合のみ 3 輪自転車に変身出来るような自転車の出現が望まれている。本考案により自転車の転倒率が低くなり快適な日々を送ることが出来るでしょう。

20

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0003】

従来の自転車は走行性能が良く狭い道路巾の場合でも、又少々の段差でも快適で手軽な乗り物であると考えられるが、重い荷物や幼児を載せた場合は、逆に不安定で非常に危険な乗り物に変化してしまいます。そこで従来の自転車の走行性能を維持しながら、重い荷物や幼児を載せた場合でも安全で快適な走行が可能な前輪巾可変輪自転車で解決しようとするものである。

30

【課題を解決するための手段】

【0004】

自転車本体の前輪部には左右並列に設けられた 2 輪と後輪とからなる自転車であって、前記 2 輪の各々は独立した左右のフォークに装着され、該各フォークの上部に設けられた回転軸を支点に、前記 2 輪の接地部間距離が可変可能であることを特徴とする自転車。

【考案の効果】

【0005】

通常は前輪の 2 輪巾を狭くし普通自転車と同等の取扱いが可能にし、重い荷物又は、幼児を載せた場合のみ、前輪の 2 輪巾を最大接地部間に広げ、車体の転倒を最大限に防止する装置を設けたことにより、特に 3 人乗りされているお母さん方には非常に役立つ。

40

【考案を実施するための最良の形態】

【0006】

操作棒の上下運動の簡単な操作のみで前輪巾最小接地部間と前輪巾最大接地部間に選択が可能なこと。又各接地部間の選択時には、安全、確実に固定出来ること。

前輪巾最小接地部間時での走行は、サスペンションの性能等により、ローリング性も良く従来の自転車と、ほとんど変わらないと考えられる。

【実施例】

【0007】

以下、添付図面に従って一実施例を説明する。図 1 は本考案に係る自転車の正面図で、

50

図 2 は側面図である。(1) 自転車本体、(2) フォーク本体は自転車ハンドル軸に固定装着されている。この(2) フォーク本体の両側に各々(3) フォークを(15) フォークピンにより装着する。

【0008】

図 3、図 4 は本考案部の詳細図である。(3) フォークの先端部に(8) サスペンションを(9) サスペンション軸により装着する。(8) サスペンションの前部に(7) 前車輪を(10) 前車輪軸により装着する。(9) サスペンションの後部に(5) 引張りバネを設け、(5) 引張りバネの上部は、(4) フォーク側フック下部側は、(6) サスペンション側フックにより装着する。

【0009】

図 5 はねじ込み固定部の詳細図で、図 6 は操作棒部の詳細図である。(18) ハンドル軸に(11) スライドカラーを装着し(17) エンドプレートを設ける。(11) スライドカラーと(3) フォーク間に各々(13) リンクを(12) スライドカラーピンと(14) フォーク位置決めピンで連結する。(11) スライドカラーに(16) 操作棒を設ける。(16) 操作棒の操作により(11) スライドカラーの上下運動は容易になり、定位位置で(18) ハンドル軸に、ねじ込み固定が可能となる。

【図面の簡単な説明】

【0010】

【図 1】 自転車全体を示す正面図である。

【図 2】 前車輪接地部の状態を示す全体側面図である。

【図 3】 本考案部の詳細図である。

【図 4】 本考案部の詳細図である。

【図 5】 ねじ込み固定部の詳細図である。

【図 6】 操作棒部の詳細図である。

【符号の説明】

【0011】

- 1 自転車本体
- 2 フォーク本体
- 3 フォーク
- 4 フォーク側フック
- 5 引張りバネ
- 6 サスペンション側フック
- 7 前車輪
- 8 サスペンション
- 9 サスペンション軸
- 10 前車輪軸
- 11 スライドカラー
- 12 スライドカラーピン
- 13 リンク
- 14 フォーク位置決めピン
- 15 フォークピン
- 16 操作棒
- 17 エンドプレート
- 18 ハンドル軸

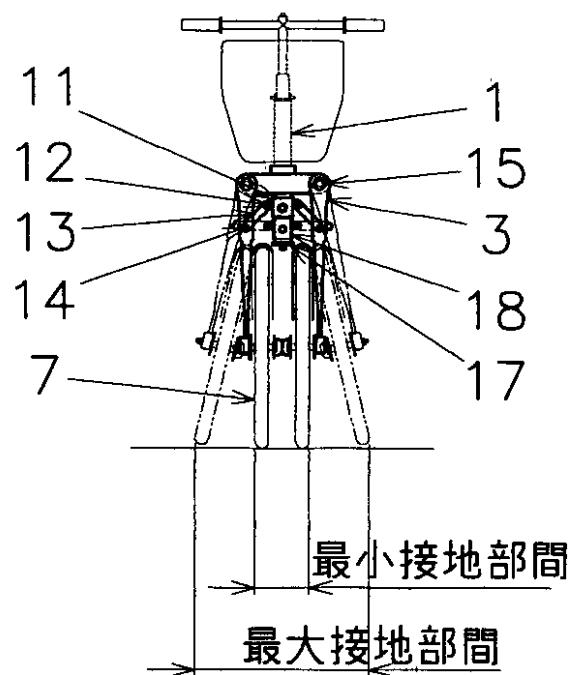
10

20

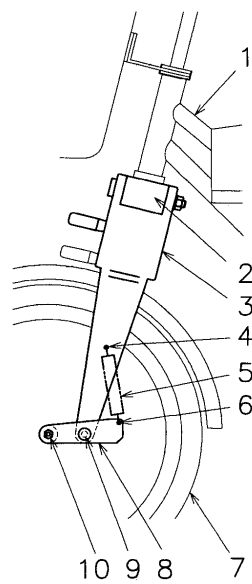
30

40

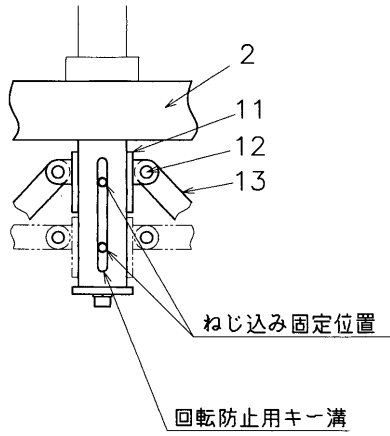
【図 2】



【図 4】



【図 5】



【図 6】

